慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	国際決済銀行篇 首藤清訳 スターリング地域
Sub Title	
Author	白石, 孝
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1954
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.47, No.11 (1954. 11) ,p.1063(67)- 1064(68)
JaLC DOI	10.14991/001.19541101-0067
Abstract	
Notes	書評及び紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19541101-0067

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

古川榮一著『財務管理組織』

從來の財務論の研究に於いては、主として資本調達、資産構成等の問題が取扱われていた。これは一部に於いて「經營金融論」と呼ばれることでも明瞭な如く、主として長期資本の調達を中心としていたのである。これに對して、本書に於いては、財務管理論の觀點より企業に於ける資本運用を基礎にして、それに必要な資本調達を研究せんとする方法を指摘しているのである。而して、從來の經營財務論的研究のうちに、財務管理論的觀點がいかなる形でその萠芽を現わし、いかに展開されたかを求、獨並びに我國に於ける代表的財務論の研究を通じて分析しているのであるが、この點は非常に緻密に論述されている。

次に古川教授は財務管理を企業に於ける經營活動の性質に從つて、經營活動の全般に渉る資本循環過程に對する廣義の財務管理と、現金の出納及び保管に對する狹義の財務管理との二種に區別して考察している。このうち、廣義財務管理に就いて檢討しよう。これは、「各經營活動を統一化し、綜合化し、したがつてまた企業全體として收支の適合關係を維持し、かつこれを推進するための財務活動の有效な遂行に對する經營管理としての一形態」（八五頁）と述べているのであるが、財務管理が各經營活動を統一化し、綜合化するものであろうか。古川教授のいわれる財務活動が各經營活動と關連を有していることは否定し得ない。然し乍ら、企業に於ける他の管理局面、例えば人事、生産、販賣等に就いても財務管局面と同樣のことがいえるのである。即ち、財務管理局面が教授のいわれる「收支の適合關係の維持を」通じて各經營活動と關連する如く、例えば人事管理局面は「生産意思の保存」を通じて各經營活動と關連しているのである。これらの各管理局面はそれぞれの合理性原則を有して全經營活動と關連しているのであるが、それを統一化し、綜合化するのは財務管理ではなく、綜合管理としての統制管理局面であると考える。斯る點より、財務管理が全經營活動を統一化し、綜合化するものであるとなすことには同意し得ない。

次に、經營計算制度の體系に就いて計算方法に依るもの（計算對象、計算區分、計算時點、計算形態、計算價値）の他に計算目的によるもの（財務報告的計算、財務管理的計算）を論じていることは本書の特徴である。各種の計算形態を明確に報告的計算と管理的計算に區分することは困難である。然し乍ら、管理的計算が漸次重視せられて來たことは一般に知られている如くである。報告計算制度より管理計算への展開を詳述し、前述の計算目的による體系を表示したことは高く評價さるべきである。

以上の如く、本書に於いては財務管理の本質とその對象たる財務活動の特性を述べ、管理用具としての經營計算制度を論じ、それを遂行するための實踐的組織としての財務管理組織に及んでいる。而して、書名のごとく財務管理組織にその重點がおかれている。

財務管理組織を述べるに際しては、先ずその前提たる經營管理論を展開し、特にトップ・マネジメントと部門管理組織に就いて詳述している。又、全般管理者を補佐する組織として成立したるコントローラー部門を重視する。而して、財務管理の擔當部門としては、廣義財務管理をスタッフ部門としてのコントローラ部門に、狹義財務管理をライン部門としての財務部門とすることを强調している。ここで注意すべきは「財務管理は企業における經營管理の一形態であつて、經營者によつて遂行されるものである。それは管理計算制度を用具として、企業における經營活動の全般にわたつて行われるものであり、綜合的經營管理の方法である」（二〇三頁）という點である。これは前述せる如き管理局面としての廣義財務管理の本質に關する問題であろう。

最後に「コントローラー制度の日本的適用」に就いて述べているが、この制度の導入に就いての困難性は一般に認められているに拘らず、その重要性が認識されているだけに重要な課題となつているのである。本書はこの點を重視して論じている。

（A五版、四七三頁、森山書店、昭和二十八年十月）

（和田木　松太郎）

國際決濟銀行編　首藤　清譯『スターリング地域』

最近スターリング地域に關する論文・著書は實に多數にのぼつており、優れた資料的文獻のみならず好著も少からずあるが、本書はスターリング地域に對する概觀を本文一七三頁（譯書）にまとめたものとして、一般讀者に手頃のものである。

原書は一九五二年十月から五三年一月の間に書かれたものと記されてあるが、この度の飜譯刊行に際し一九五三年の回顧と展望とが新しく追加された。いずれも國際決濟銀行の年次報告にみる分析と同樣の性格をもち、適宜な資料を配列して要領よくこの概觀の任を果している。おそらく年次報告から適當にばつすい整理をしてまとめたものであろう。

第一章緒論ではスターリング地域の意味を述べ、國民所得・人口・外國貿易からこの經濟的重要性を説明して、「諸國の通貨が再び交換性をもつに至つても、スターリング地域の機構の本來の性格はあまり變化する要なし」とみ（九頁）、第二章ではこの成立の過程を回顧する。そこで特に强調される問題は、「何故スターリングが廣く用いられたか」ということである。これは本問題を研究する以上、いかなる場合でも一應はあきらかにされなければならぬものであるが、本書は英國の通貨、金融政策の貢献、就中英蘭銀行の信用政策が「恐慌時の無制限信用供與、健全企業に對する融資の保證」という原則を守つたこと、金融・商品の自由市場を維持しつづけたこと、また地域内諸國の對内・對外的均衡保持のための金融政策の實施などをかかげ「通貨制度の成功を保證するものは、保有準備の大きさではなく、その時代を支配する思想、制度及び政策の全總合體の力である」と結ぶ。次で一九三一年以後の爲替管理時代に及び第三章・第四章において、今次大戰前後の貿易及び貿易外收入につき、前述したような年次報告的分析をもつてその推移を展望する。わずか六〇頁餘にすぎないが、簡潔な描寫によく本書の特徴を現している部分であろう。

しかし一九一三年から三九年、一九四六年から五二年の英國を中心とするスターリング各地域の國際收支の姿に對しては、本書は單なる描寫にとどめ、その問題點の究明には第五章以下の四章をあてている。即ち、第五章スターリング地域と物價變動においては、まず「英國とスターリング地域諸國との利害の一致」を説き、特に同地域の産物の價格に注目し、その變動が及す惡循環を指摘した後、「もつと貿易が平常狀態に戻り、ロンドンその他の地方で再び商品取引所が效果的働きを示すようになれば、必らずや諸物價の均衡がとれるようになるであらう」（九七頁）國際商品協定による價格安定策は「常にその交渉の行われる時期の事情を基礎にして作られるから、その後に續く生産消費狀況の變化による新事態の要求に合致しないことが屢々起つてくる。實に、協定なるものは膨脹の必要な時にこれを抑制する作用を現わし、協定自身が不均衡の要因となるといつてよい」（一〇〇頁）また米國の原料に對する需要の變化に對應

する資源開發の措置は「スターリング地域に關して特に重要」であるが「各種商品取引所を再開すれば、そこに現れる相場の相互比較の關係から當該商品の需給狀態に的確な判斷が與えられ、その結果は、最も緊急必要とする商品の供給に生産を集中することが出來ることとなろう」（一〇一頁）と主張する。第六章では英連邦の特惠關税率制度をとりあげ、特にガットとの問題にふれ、その理想と現實とのギャップを近時の米國の保護貿易政策への後退や一九五二年末の英連邦會議でのコムミュニケにみ、この動向を解説している。しかしこの箇所は重要でありながら甚だ簡略に終始し、問題を提示しながら「英連邦諸國はガット加盟國として留まることを意圖しながら、特殊な困難解決のためには、個別的に若干の細かい調整をはかるべく協定を取結ぶことを希望しているようである」（一一三頁）と章を終るのは失望を感じせしめるであろう。第七章では戰後における國際金融の問題であるスターリング債務について、まず戰前のロンドンの金融並に資本市場から今日までの債務累積の大きな變化を概觀し、その殘高の推移をみつつ、それが長期融資の目的に用いられるよりも「國際收支勘定の一時的不足を融通する目的で使用」される方が問題が大きく、そのために「いかにしてロンドンにおける中央準備金を強化すべきか」（一三一頁）が重要となつており、それにはスターリング地域の諸國の金融情勢の安定回復が決定的意味を有すると論じている。この詳論が第八章スターリング地域の收支均衡である。これには各國の戰後の過渡の流動資金の存在が指摘され、「今までのところ決して滿足すべきものでない」（一三七頁）と批評し、次で英國の通貨政策を中心に、いかにその調整ひいては國際收支の支拂超過の阻止につとめたか、その結果、いかに改善し得たかを述べ、その反面「財政部門の支出過多と貯蓄不足」に直面した重大さを強調している。（一四五頁）というのは、英國は屬領地域の開發計畫に對する責任を有し、また各國がスターリング殘高を一層引出そうとしていること、英國の工業は海外諸國に所要の資本財を供給しなければならぬこと、これがスターリング地域全般に直ちに影響する問題であるからにほかならない。しかし、一九五三年を通じて、スターリング地域は著しく強化され實質的に改善された。國際收支の改善は普遍的とはいへないが（一五七頁）輸入制限は次第に廢棄され、英國の工業生産は上昇し、商品取引所の再開を增進することに成功して、しかも通貨準備は堅實な上昇をたどり「一つの難關をうまく通りこした」（一五九頁）通貨の交換性回復に必要な條件も一九五四年には一層大きな進展をみると考へられるに至り、「戰爭による緊急事態の結果やむなく本來の自由な形態を離れた」スターリング地域も「今や新しい轉換のきざしが見えはじめている」（一五二頁）と。しかしこの結論は、本書のいう「再び過去の如き世界通貨制度の上で重要な組織としての役目を果すスターリング地域の念願」を實現してゆく過程であろうか。

（B六版、一九〇頁、東洋經濟新報社、昭和二十九年六月　二五〇圓）

（白石　孝）

A・H・ハンセン『貨幣理論と財政政策』

本書についてと言はれても今更内容の紹介を試みる必要はあるまい、と思はれる。本書は「貨幣理論と財政政策」といふ表題にも拘らず、著者がその序文に於て、「貨幣理論の分野は現在、經濟學文献における由々しい缺陷を曝露してゐる。……近代貨幣理論に關する總括的な書物は一つもない。」「本書は主として貨幣の問題に捧げられており、それは貨幣の役割について私が以前のどの著述において示したよりも、ずつと詳細な考察を與へてゐる。」と述べてゐる如く、最近に於て「貨幣論」と銘打つた書物が主として貨幣・銀行に關する制度的、記述的な説明に終始してゐる現狀の下に於て、貨幣と物價に關する總括的な理論的な考察を行はうとすることが著者の主要眼目であり、したがつて又本書の大部分が貨幣に關する理論的な考察に捧げられており、財政政策に就てはあまり説明が與へられてゐない。したがつてここでは本書に於ける貨幣理論の中心的な説明をとりあげて若干考察することとする。

貨幣理論に就て最も中心的であり且つ興味ある考察は本書の第三章及び第四章に於ける著者ハンセンの所説であらう。第三章に於ては「數量説とマーシャルの所説」と云ふ題目の下に、マーシャルの古典的數量説――現金殘高數量説――に對する著者の新しい觀點からする周到な解明及び批判が與へられてゐる。

ハンセンは先づ貨幣當局が貨幣供給量を增加しようと決意したと假定して、この過剰貨幣が如何に處理されるか、を考察する。例へば貨幣當局が公衆から證券を購入したとする。この證券に對する支拂として新たな預金が創造され、公衆はヨリ多額の現金量を保有し、銀行制度はヨリ多額の證券を保有するに至つた。公衆によつて欲求される現金保有量（L）と現實の現金保有量（M）とが新貨幣の創造以前には互に均衡狀態にあつた（M＝L）とすれば、今や M＞L である。M－L に等しいこの過剰もしくは餘分の現金は如何に處理されるであらうか。ここに三の經路が考へられる。

一、過剰貨幣が直接に財貨及び勞務に支出される場合……この場合には消費財もしくは投資財に對する支出が增加するであらう。それは生産條件の變化に應じて物價の騰貴をある場合には伴ひ、ある場合には伴はずに産出高の擴張を惹起する傾向をもつ。かくて、貨幣當局は貨幣數量を增加する事に依つて、所得、雇用、産出高及び場合に依つては物價の騰貴を惹起し得る。

二、過剰貨幣が直接に財貨及び勞務に支出されない場合……有利な條件で銀行制度に證券を賣却するように誘引された人々がその貨幣を財貨及び勞務に直接支出することを欲しないかも知れない。この場合には直接に所得、産出高もしくは物價の增加は起らない。證券の價格のみが騰貴する。しかし債券價格の騰貴は利子率の低落を意味する。かくて此の場合に於ても貨幣當局の貨幣供給量の增加は低利子率を經て流出し、建築、設備及び資本財一般に對する需要の增加を形成する。かくして所得、産出高及び物價の增大をもたらすこととなる。

三、二の場合の限界として次の樣な事情が尙考へられる。第一に既發證券の貨幣化は創造貨幣の大部分を比較的富裕な階級の掌中に置くといふ效果をもつかも知れない。かかる場合には證券の貨幣化に伴ふ貨幣供給量の增加は貨幣支出を著しく增加するといふよりも、現金保有量增加の傾向を生ずる。次に、證券の貨幣化がある程度行はれ、證券價格が可成り騰貴し、したがつて利子率が可成り低水準に迄下落すれば、最早貨幣供給量の增加は市場に殆ど若くは全く影響を與へないであらう。このような低水準の利子率の下では、流動性選好函數は利子率に關して極度に彈力的となる。新に創造された貨幣は直接に財貨及び勞務に支出される事もなければ、利子率の下落を通じて資本形成の中に排け口を見出す事もない。かくて過剰貨幣の保有者はそれを單に確實で安全な流動資産として保有することになるであらう。

貨幣供給量の增加が生じた場合に起るであらうと考へられる事情は以上の如くである。貨幣數量の增加は財貨及び勞務の購